

科目名	保育内容研究 (こどもと人間関係)	教員名	こたき 小滝 さとし 聰	開 講	保育科	1年次	前 期
<p><b>・目的と内容</b></p> <p>こどもを囲む環境が激変している。少子化と核家族化、都市化の進展により地域の教育力が大幅に減退している。その結果、豊かな人間関係を作れない子どもが激増している。今後、保育にかかわる者として、こどもがどのような社会環境の中におかれているかを深く認識、理解することは極めて大切である。その上で、親のあるべき姿、そして幼児教育者として子どもに接する心構え、また接し方、援助の仕方、地域社会の教育力のあり方等を受講者ととも話し合い、現場での事例を学び理解を深める。</p>							
<p><b>・授業計画 [ 単位数：1 単位、授業週数：15 回 ]</b></p> <p>[ 前期 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもをどう観るか</li> <li>2. 子どもの社会性の発達</li> <li>3. 現代社会の特徴</li> <li>4. 都市化と人間関係の変化</li> <li>5. 伝統的日本の家族と子どもの成長</li> <li>6. 現代家族と子ども</li> <li>7. 日本人社会の変化、親子関係、男女関係とは</li> <li>8. 日常生活と子どもへの対応</li> <li>9. 日常生活と子どもへの対応</li> <li>10. 母性とは、父性とは</li> <li>11. 見えない父親とは、その対策とは</li> <li>12. 母親の過保護</li> <li>13. 親子関係とは</li> <li>14. 地域教育力の再生</li> <li>15. まとめ</li> </ol>							
<p><b>・講義の進め方</b></p> <p>この科目は演習科目である。そのことを意識して、クラス内での討論を積極的に行い、多くの人の考え方を学び、自分の考え方を確立することを心がけて欲しい。授業はパワーポイントを使用して進める。また、内容により、その分野の専門家を外部から招いて、講義をしてもらう計画である。</p>							
<p><b>・試験と成績評価</b></p> <p>15回の授業のなかで、各学生が取り組んだ課題について小論文を作成し評価を行なう。前期の終わりには試験を実施する。</p>							
<p><b>・担当教員から受講生諸君へ</b></p> <p>この授業は学生達と意見交換をしながら展開する。したがって受け身で話を聞くという態度では、受講する意味はあまりない。こどもの社会性をどのように育てるのか、自ら考えながら積極的に議論に参加することを望む。</p>							
<p><b>・使用教材</b></p> <p>教科書： 参考書：参考文献 『父性の復権』『母性の復権』林道義著 中公新書</p>							